

グローバル社会の中での地域スポーツの意義 —アイルランドの伝統スポーツを例に—

海老島均¹⁾

The Meaning of Local Sport in the Global Context: A Case Study on Irish Traditional Sport

Hitoshi EBISHIMA

Key words : グローバル社会, 地域スポーツ, アイルランド, 伝統スポーツ, GAA

1. 研究の目的

生涯スポーツを可能にするシステムの一つに「地域スポーツクラブ」の存在がある。特にヨーロッパにおいては、地域スポーツクラブの存在なくして、生涯にわたってスポーツを楽しむライフスタイルは作りえないといっても過言ではない。しかし、その地域スポーツ(クラブ)がグローバル化社会の中で、様々な影響を受け、変容している。「グローバル」対「ローカル」という二項対立構造の議論の中では、ローカルの独自性が、グローバル化の荒波に押し流され、均質的文化に矮小化されていく図式が描かれる。しかし、ギデンズ(ギデンズ, 2001)の議論によると、文化のグローバル化は複合現象であり、市場の統一に代表されるような「上方統合」の力と、国境を越えて、民衆が様々な理念、価値観を共有することによるフラットなつながり、つまり自立分散化を促す「下方拡散」の力との均衡の上に成り立っている。「グローバル化」とも形容されるこの「均衡」を地域スポーツ研究の中に見出そうとするのが本研究の目的である。

2. 研究の対象, 方法

研究の対象はアイルランド共和国のローカル・スポーツで、GAA (Gaelic Athletic Association) によって統括されているゲーリ

ックゲームズ(主な種目はゲーリック・フットボールとハーリング)を選択した。筆者は1992~1993年および1997~2001年まで現地に在住し、2001年以降も継続してゲーリックゲームズに対する調査を実施してきた。研究方法は、現地マスメディアの報道における言説分析、協会、選手組合、クラブ関係者に対するインタビュー、クラブの活動への非参与観察、各クラブが編纂するクラブ史およびGAAが発行する書籍および広報書類の分析である。

3. ゲーリックゲームズの成り立ちおよび変遷

(1) GAAの成立, ゲーリックゲームズのコード化

GAAはイギリス植民地時代の1884年に設立され、アイルランド文化復興運動のシンボリック的存在として、独立運動でも中心的役割を果たしてきた。ゲーリックゲームズの起源は明確ではなく、英国文化に対抗する「創られた伝統」という意味合いが非常に強い。GAAの地域クラブはパリッシュ(カトリックの小教区)をベースとしており、GAA創設当初よりパリッシュにクラブということが厳格に定められてきた。アイルランド独立運動にカトリック教会の果たした役割も大きく、GAAはカトリック教会との結びつきの中で、現在もアイルランド社会のパワープロ

1) 生涯スポーツ学科

ックの一端を担っている。GAAが文化的側面で反英国化の先鋭的役割を果たした証に、Ban（禁止令）の存在がある。GAAに所属する選手・役員が、英国型スポーツ（サッカーやラグビーなど）をプレーすること、また観戦することすら厳格に禁止したものだ。このルールはアイルランド共和国成立後の1970年まで継続し、GAAに関わる人のナショナリズム形成に大きく関与したと思われる。こうした経緯で発展した地域のGAAクラブはナショナリズム、ローカリティとの結びつきを強め、GAAクラブ=地域コミュニティと言っても過言ではない。これは現在も、特に地方に行くと顕著であり、類を見ないことである。

(2) グローバル化社会の中でのアイルランド社会の変容と GAA の変化

アイルランドは1990年代後半より急速な経済進歩を遂げ、さらに1999年にユーロを導入したことでEUでの役割も強まっていった。この状況下で対英国というバインドで形成されるナショナリズムより、EUの中でのプレゼンスを高めることで国の威信を示していこうとする国民感情が形成されていった。これに呼応するかのようにスポーツも、国際大会で活躍の著しい、サッカー、ラグビーが高い人気を集めるようになった。一方GAAは国内で高い人気を維持しているものの、インターナショナルなテイストを欠くため、若い世代に対するアピール力不足というジレンマに陥った。この局面を打開するために、GAAは1998年からルールやゲームの進行方法が類似しているオーストラリアン・フットボールの代表チームと国際試合をスタートさせた。GAAが試みた「グローバル化」は表象的なコスモポリタニズムという意味合いが強く、世界レベルで複雑な連鎖により推し進められているスポーツのグローバル化との間には、実際のところ大きなギャップがあった。

4. グローバルとローカルのせめぎあい：グローカリゼーションの様相

マグワイアーによると、スポーツのグローバル化には段階的な進展がみられる。娯楽が

スポーツ化 (Sportization) したことがPhase 1 であり、その後は西欧主体の地政学的な拡大に伴いPhaseが進行している。現在はPhase 5 と位置付けられ、脱西欧化が特徴とされる (Maguire, 2001)。Phase 5 の特徴として、マネジメント体制にみられる均質性、グローバルスタンダードの出現が挙げられる。

2004年に改修されたゲーリックゲームズの聖地クローク・パークは収容人員8万人を超えるヨーロッパ有数の競技場である。アマチュア団体所有のスタジアムとしては世界最大規模だ。入場料、コーポレートスポンサーシップ、放映権料等を総合すると、GAA本部には多額の資金が流入している。GAA本部は多大な資金力を有し、極めて「プロ」的な運営がなされている。それに対して選手の純粋なアマチュアステータスには変わりがなく、選手たちは待遇改善を求めて1999年にGPA (Gaelic Players Association) という選手組合を組織したが、話し合いの糸口はみえてこない。GPAが要求するのは、真剣度の高い競技環境 (グローバル・スタンダード) であり、GAA本部の思い描くグローバル化 (表象的コスモポリタニズム) とは落差がある。GAA本部が反英国化として築き上げてきた「内向き」なナショナリズムと新しい世代の「外向き」のナショナリズムとの間には大きなコンフリクトが存在する。筆者はこうした多くの内部矛盾を抱えつつ変容していくGAAに対するフィールドワークを継続的に行っている。GAA設立時の基盤である高いローカル性と、様々な文化的連鎖から生まれたグローバル・システムとの間に、どのような融和性が生まれるのであろうか？ 地域スポーツのグローカリゼーションの様相に関して議論するうえで、貴重なケーススタディとなりうるであろう。

参考文献

- 1) ギデンズ, A. (2001): 暴走する社会, 佐和隆光訳, ダイアモンド社
- 2) Maguire, J. (2001): Global Sport, Polity